

みなとぴあボランティアレター 第34号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2017.11

2017 年度夏・秋の活動をお伝えします！

7/23 暑気払い

今年の暑気払いは、古町の老舗「田舎家」が会場でした。田舎家は、美食家で料理人でもある北大路魯山人とゆかりの深いお店です。名物のわっぱ飯は、魯山人の助言を受けて完成したといわれています。懇意にされているボランティアの方の計らいで、なんと田舎家のご主人に、魯山人との関わりを語っていただきました！お話を聞いてからいただくわっぱ飯は格別です。

新潟の郷土料理をいろいろな意味で味わいながら、博物館ボランティアならではの暑気払いとなりました。幹事の飯島イツさん、平野マサ子さん、そして参加者のみなさま、誠にありがとうございました。



幹事のお二人と会場。



田舎家ご主人の吉沢さん。
貴重なお話をありがとうございました。



おいしい話と料理に
お酒もすすみます。



7/30 タイムスリップクイズラリー

夏休みにあわせて、常設展示室でクイズラリーを開催しました。ボランティア有志がつくった時代ごとの衣装でポイントガイドを行います。今回は、7月末から8月初めにかけて実務実習にきていた学生さんたちにも受付などを協力してもらいました。

テキパキとお世話してくださるボランティアのみなさんのおかげで、実習生も楽しみながら参加してくれていました。



10/12 ボランティア研修旅行 紫雲寺潟干拓と阿賀野川掘割めぐり

本企画は、紫雲寺潟干拓と阿賀野川掘割の現地をさぐり訪ねるという非常に意欲的なものでした。

紫雲寺潟があった場所は市外ですが、その干拓は、松ヶ崎（いまの松浜あたり）の阿賀野川掘割の開削に関わっています。河口付近で信濃川に合流していた阿賀野川は、享保 15（1730）年に開削された掘割が翌年決壊してしまったため、河口が信濃川とは別の位置（現在の河口）となりました。そしてこの掘割開削は、もともと、紫雲寺潟干拓で潟に流れ込む加治川の支流（境川）を締め切ることによる、加治川の水量増加、すなわち加治川が合流する阿賀野川の水量増加への対策のため、実施されたのでした。

江戸時代に干拓された紫雲寺潟は、現在ではその姿も正確にはわかりません。その具体的な干拓について、幹事の山崎雄さんが文献などにあたりながら根気強く調べ、他のボランティアの方々の協力も得て研修のコースを練り上げてくださいました。山崎さんの精力的な研究活動と、それに触発されたボランティアの方々の知的好奇心の高さに感服しました。おかげさまで、常設展示室では簡単にしか触れていない紫雲寺潟干拓について、その事業内容をよりリアルなイメージをもって確認でき、新潟市史にとって重要な阿賀野川掘割について理解を深めることができました。

幹事の山崎雄さん、井越勝芳さん、濱口順子さん、鳥山利廣さん、おつかれさまでした！



同じく干拓で締め切られた今泉川締切あたり（新発田市〆切）



干拓に尽力した竹前氏の墓（紫雲寺）

境川の締切地近くにて（新発田市米子）



「紫雲寺潟干拓」研修に思う

冒険旅行をしている様なワクワク感だった。現地に立ち、①これだけの範囲を、②この方法で、③これだけの水田にしたのかと思い、感動さえ感じた。一見水平だが、用排水の為にゆるやかな播鉢状にされた圃場の底から、県道に通じる坂道を登る時には、「これこそ干拓された土地の証拠だ」と興奮した。

この干拓が新発田藩に与えた影響を思うと、「自分なら、どの様な方法で干拓したか」と余計な事まで考えてしまった。

（井越勝芳さん）



境川の締切地近くの白山神社



加治川分水路の水門
近代には、加治川の河口も
変えられた。

11/6 にいがた歴史探訪 新津の魅力再発見！

今年の歴史探訪は、紅葉の時期に合わせて実施されました。秋葉区でもボランティアとしてご活躍されている荒木信夫さんの企画で、新津の魅力を改めて見直す機会となりました。

スタートは、秋葉区小口の観音山山頂にある若宮社です。若宮とは順徳天皇の第二皇子で、父を慕ってこの地まで辿り着いたものの追っ手が迫って自害し、村民がご遺体を埋葬したといわれます。参道として若宮橋を造るなど、いまでも若宮のことを大事にされている地元小口のガイドの方々（秋葉里山ガイド）にお話を聞くことができました。

その後は、金津地区の中野邸記念館と、滝行でも知られる白玉の滝を、新津観光協会ガイドの方にご案内いただきました。とくに中野邸記念館は、今年4月に非公開の25室全公開となった館内のほか、「四季の庭・泉恵園」と改称された庭園の、いままさに盛りの紅葉も楽しみました。

お昼は、幹事の荒木さんの娘さんがお料理を作られている「同舟庵」でいただきました。五泉の里芋きぬ「帛乙女」がごろりと入った芋煮汁、ごちそうさまでした。

そして締めくくりに訪れたのは、2014年にリニューアルした新津鉄道資料館です。学芸員の岩野邦康さんに新潟の鉄道の面白さ満載でご案内いただき、特急いなほ（485系電車）の中も特別に見学させていただきました。

他にも時間の関係で組み込むことができなかったという見学地は多く、新津、秋葉区の見どころの豊富さを感じます。今回はその一部を厳選した見学コースでしたが、参加者には魅力を十分感じていただくことができました。終了後は「楽しかった」という感想をたくさん寄せていただきました。荒木さんを中心に、企画・当日のお手伝いをいただいた斉藤正三さん、伊与部陽子さん、渡辺礼子さん、誠にありがとうございました。



秋葉区小口の若宮社



新津鉄道資料館、特急いなほの車内



白玉の滝（雌滝）の前で

見学地の最初は、順徳天皇の第二皇子とされるひろみ廣臨親王終焉の地でした。社殿を建立し、約800年に渡り伝承を守り抜いてきた小口地区の人々の秘めた迫力が、地元ガイドの口から語られたとき、感動をおぼえました。

次に、何回か足を運び、よく知っている新津丘陵などを回りましたが、中野邸記念館がリニューアルされたことや、そこを本当に愛し知ってもらいたいと思っている人のガイドによって、別の世界を見ているようで、新しい発見をしたような、有意義で楽しい一日を過ごすことができました。（斉藤正三さん）

10/15 第8回みなとぴあで絵を描こう

今年で8回目となるボランティア企画の写生会「みなとぴあで絵を描こう」は、大がかりには広報せずに関催しました。やはり、写生会を目当てにいらっしゃる方は少なかったですが、当日に知ってご参加くださる方がいて、計12名にご参加いただきました。

写生会は、本館の正面玄関で、色鉛筆や絵の具などの写生道具をたくさん並べて「店開き」します。それらを貸し出すので、その場で参加できるのです。また何より、ボランティアのみなさんが、来館者が気軽に参加できるように声をかけたり、自ら描いて看板代わりに受付で展示してくれたり、いろいろと働きかけてくださいました。そのおかげで、多くのお子さんたちが「描きたい！」と受付に寄ってきてくれ、描き終わったあとも、みなさん笑顔で記念撮影に応じてくれました。



10/29 もちつき大会

今年のもちつき大会も、昨年に引き続き、毎年秋のむかしのくらし展の関連イベントとして実施しました。昔ながらのウスとキネを使ってのもちつきは、ボランティアのみなさんのお力を借りないと成立しないイベントです。今回も10名の方にお手伝いいただきました！

まずボランティアスタッフがもちをつき始めると、その力強い音に歓声があがりました。ある程度ついたところで、希望されるお客様にももちつきを体験していただきます。子どもから大人まで、多くの方がトライしてくれました。



もち米の粒がなくなりつるりとしたもちになると、今度は一口大にちぎっていきます。熱々のもちを扱うのは大変ですが、ここではボランティアの女性陣に活躍していただきました。そして、きなこかあんこ、お好きな味をトッピングする部分では、手慣れたボランティアさんが店員のようにお客様とやりとりしながら対応してくださいました。子どもたちは「あつい！」などと声をあげながら、つくたてのおもちを味わっていました。

【編集後記】

34号は、2017年度夏・秋のイベントをご紹介しました。今年の《ボランティアフェスティバル》は春にすでに開催していたものの、それでも秋はイベントが多く、夏はその準備と、あいかわらず大忙しでした。みなさまいつもありがとうございます！（中村）

2017. 5. 28 現在

みなとぴあ歴史発見プロジェクトは、子どもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、まもなく開港150周年を迎える新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとぴあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

